

街道東城路・街並み通信

vol. 2

～街道東城路周辺地区 魅力ある街並みづくりと地域の活性化 ワークショップについて～

平成27年12月

発行：庄原市都市整備課

街道東城路周辺地区において、歴史的な街並みの魅力を更に高めるとともに、賑わいの創出や住みよさの向上を図るため、住民や関係団体等の皆さんを中心としたワークショップを、今年度・来年度で開催します。ワークショップでの意見・提案をもとに、庄原市として具体的な施策・事業を検討するとともに、地元住民・事業者等の皆さんによるまちづくりの取組を促進します。なお、第2回ワークショップは12月9日（水）に開催しました。

今回は、先進地視察（山口市）の報告などの後、広島大学教授の松田先生に街並みづくり・まちづくりに関わる講演をしていただきました。講演後は、4つの班で共有できる目指す姿や方向性、取組のアイデアについて意見を出し合いました。

第2回ワークショップのプログラム等（要点）

日時：平成27年12月9日（水） 19:00～21:00 会場：庄原市役所東城支所
参加者：住民・関係団体等の皆さん15人、アドバイザー2人、広島県3人、庄原市役所9人
進行役4人、報道機関1人

はじめに

- あいさつ・開催趣旨
- 今日の進め方、講師の紹介

- 先進地視察（山口市）の報告自己紹介
 - ・都市再生整備計画による公共施設の整備
 - ・景観ガイドラインと届出・助成制度
 - ・市民の活動



講演「古き良き街並み資源を生かしたまちづくり-広島市西区草津地区の事例-」

講師：松田 智仁 氏（広島大学 大学院 社会科学研究科 マネジメント専攻 教授）



自己紹介

〇ライフワークは、街づくりの実践・研究です。

都市政策の研究会、建築学会や都市計画学会、建築士会の活動、草津まちづくりの会、ハビークラブ（アニメーション文化振興）などにおいて「まちづくり」と「自己実現」に努めてきました。アフター5 や休日を利用して市民参加のまちづくりを実践・勉強中です。最近では、防災まちづくりの研究をしています。

目指す姿・方向性、取組のアイデアなどの検討（班ごと）

A・B班『ルールづくり・施設整備班』

- ・目指したい将来の街並みの姿
- ・街並みづくり（ルール、建物・施設整備）で大切にしたいこと
- ・5～10年後に自分として、街並みづくりにどんな関わりが持てるか
- ・取組のアイデア

C・D班『観光交流・地域生活班』

- ・観光交流として目指したい姿・大切にしたいこと
- ・生活の舞台として目指したい姿・大切にしたいこと
- ・5～10年後に自分として、観光交流や地域活動にどんな関わりが持てるか



全体会

- アドバイザー（松田智仁 氏：広島大学教授、福田由美子 氏：広島工業大学教授）のコメント
- 次回（第3回）の案内：平成28年2月12日（金） 19:00～ 会場：東城自治振興センター
テーマ 『まちづくりのアイデアを掘り下げよう（その1）』

講演会『古き良き街並み資源を生かしたまちづくり 広島市西区草津地区の事例』

(松田 智仁 氏 [広島大学 大学院 社会科学研究所 マネジメント専攻 教授])

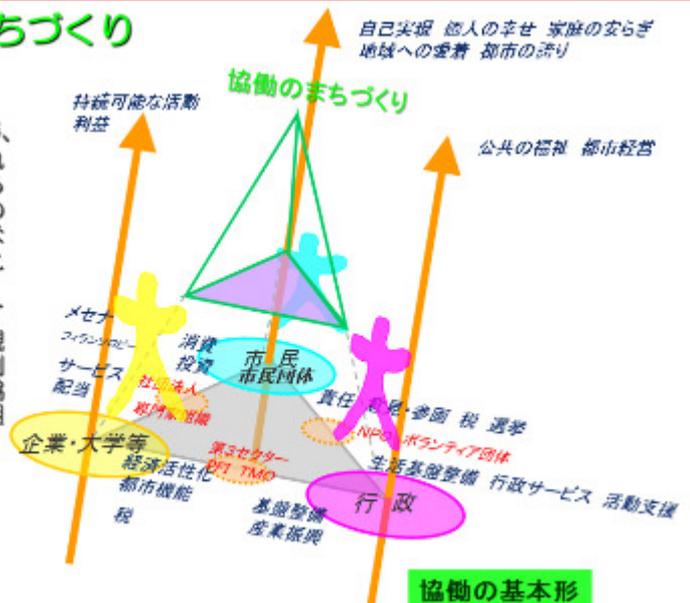
講演の要旨

- 街並み資源・地域の宝（街・建造物、行事・活動、生業、歴史文化、情報…、そして人）を生かしたまちづくりの事例として、広島市西区草津地区の活動について講演されました。
- まず、松田先生が大切にされているという先人（民俗学者 宮本常一の父）の教えとして、「1. 訪れた地域の家の造り、人物などをよく見ることで、どういう地域なのを理解すること。2. 新しい訪問地では高い場所から全体を見て、目を引く場所には必ず訪れること。3. その土地の名物や料理を食べ、暮らしの高さを知ること。4. 出来るだけ歩けば、色々なことを教えられる。・・・(中略) 10. 人の見のこしたものを見るようにせよ。その中にいつも大事なものはあるはずだ。」など、観察することの重要性や、人生の歩み方についての10ヶ条を紹介されました。
- 草津地区には多くの歴史文化をはじめとした街並み資源が存在し、そうした中、地区内にあった広島三大銘菓の一つであったお店の閉店イベントを契機として、まちづくり活動の母体が立ち上がったこと、その後広島市の支援事業を受け、様々なまちづくり活動が展開されていることが紹介されました。
- 活動内容としては、閉店イベントを引き継ぐ形でコンサートやフリーマーケットを中心とした「草津まちオープンミュージアム」が開催されていること、多くの寺院があることを生かした「除夜の鐘ラリー」、漁港などの地域特性を生かした「草津うまいもん市場」といったイベント、地域の宝を大切に、広める「まちガイド倶楽部」、歴史のデジタル化に取り組む「IT博物館倶楽部」による人材の活用、行政との協働による交流広場づくり、橋の欄干改修といった取組が紹介されました。
- 今後の課題として、会員の高齢化による人材の確保や、自己調達手段の確立による資金確保が上げられ、定期的な活動方針の見直しや、まちの人に、大学生や地域外の応援者などを含めた「人づくり」によるまちづくり活動の継続が大切であるとされました。
- とりわけ、松田先生の持論である「まちづくりはひとづくりと協働から」について、行政だけではなく、市民、事業者などが知恵を出し合い、できることを重ね合わせ、社会や地域の将来目標に協力して取り組むことの大切さを熱く語られました。
- 風の人と土の人で織り成す「風土」という観点から、地区の文化的資源をどのように保全していくか、また、時代に適合させながら整備・継承していくかを、「土の人(住民)」が、「風の人(地区に心寄せる人達)」と共に考え、そして楽しく実行する時が来ました、と語られています。さらに、「風の人」となる場合は積極的に、「土の人」は穏やかに、と付け加えられました。

協働のまちづくり

協働

市民、企業等、行政それぞれの主体が自らの目的のための活動を行なうことに加えて、他者と共有する目標の実現に向けて役割分担の上で協力して取り組むこと。



松田先生作成の協働のまちづくりの基本形



区分	意見概要
目指したい将来の街並みの姿、街並みづくりで大切にしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが歩きやすい通り。誰にでも優しいまち（人と車が共存） ・各家の個性をコマーシャル（宣伝）できる街並み ・電柱のないまち。電線類の地中化 ・歴史の混在（明治・大正…）、戦後の洋館も残し、まち全体として和洋折衷に ・下町の歴史的街並み（景観）づくり ・上、中、下で違いを考える（生かす） ・表だけでも統一したものをつくる ・河岸、川沿いの景観づくり。川を生かしたまちに（川辺に降りることができる） ・鴨や野鳥のいる川（山口市一の坂川のように） ・山と川を大事にする ・町家だけでなく、城下町という背景も生かす ・板暖簾などの特徴的なものは残すよう ・古い看板を残していく（風情を） ・地域の修景を担う、大工にも焦点を当てた街並みづくり ・道路の舗装はしっかりとする ・住んでいる人も観光客も使いやすく。外部から人が来るまちに など
5～10年後に自分として、街並みづくりにどんな関わりが持てるか	<ul style="list-style-type: none"> ・色彩は統一して手を入れていく、外観修景に取り組んでいる ・空き家が朽ちる前に活用する手立てを考える ・城山の維持に携わる（草刈りなど） ・（比較的）若い人、外からの人がアイデアを出している ・人材を活かす雰囲気をつくっている ・道路のバリアフリー化を考え、提案している ・東城らしい、ヘアサロンの“カラカラ”をつっている など
取組のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールづくり（ガイドライン）→景観改修・看板を取る助成制度 ・住んでいる人にとって、管理しやすいルールに など <p>※取組については、次回（第3回）と合わせて紹介します。（C・D班も同様）</p>

区分	意見概要
観光交流として目指したい姿、大切にしたいこと 生活の舞台として目指したい姿、大切にしたいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的な街並み（風情、雰囲気）、商人のまちや昭和・明治など混在の良さ ・歴史・文化を身近に感じる街並み、歴史的な商店街等の現状保存 ・三楽荘があるのできれいな通りでありたい（花など） ・家のお宝紹介、おもしろいポイントがたくさんある ・住民が資源に誇りをもつこと、街並みの魅力の共有 ・街並みの魅力を伝える人の世代を超えたつながり ・住民同士のつながり。近隣付き合い（鍵をかけない安心なまち） ・地域外から町おこしをしたい人が集まる基地づくり ・ガイド付き（街歩き）プラタモリが当たり前になる。歩く仕掛けを ・誰にも優しい（乳母車などを押して歩ける街並みづくり） ・住んで良し、訪れて良しの街並み。生活、暮らしを見せる ・住む人が暮らしやすいまち、住みやすい東城（スーパー、病院）→人口が増える ・ほどほどの交流人口の増加 ・生活を中心とした暮らしを充実させる。裏道のこぎれいさ ・食べる、くつろぐ、泊まる、歩く、買うなどが揃う場所 ・昔から愛着のある東城川の名前の復活。その前は有栖川という名前があった ・東城路をイメージしてほしい（PRの強化） ・東城の子ども達に「東城大好き」だと思って欲しい ・鉄の歴史の継承・活用。川の砂で鉄をつくる子どもたち（体験機会） ・東城の年中行事を、体験を通して広めたい
5～10年後に自分として、観光交流や地域活動にどんな関わりが持てるか	<ul style="list-style-type: none"> ・活用や愛着を次世代に引き継ぐ ・目指したい姿を達成するための仕組みづくり ・得意分野（料理、陶芸、木工）を生かしたまちづくり ・地域（街並み）を元気にしたいひとの応援、支援（来訪、誘客、PR） ・まち歩き、胡めぐり、みんながガイド（ちょっとした声掛け） ・茶房を開店（時々和菓子作り体験）。着物歩きイベント ・力仕事（タンスの移動の手伝い）。日曜大工（ものづくりイベントがあれば参加） ・買い物に行く（行きつけのお店をつくる）
取組のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> ・東城路資源ガイドブック。ガイドマニュアル。情報のデジタル化 ・散策コースづくり（プラタモリ） ・車と歩行者の共存（歩道を色で分ける）。電柱をなくし、ベンチを置く など

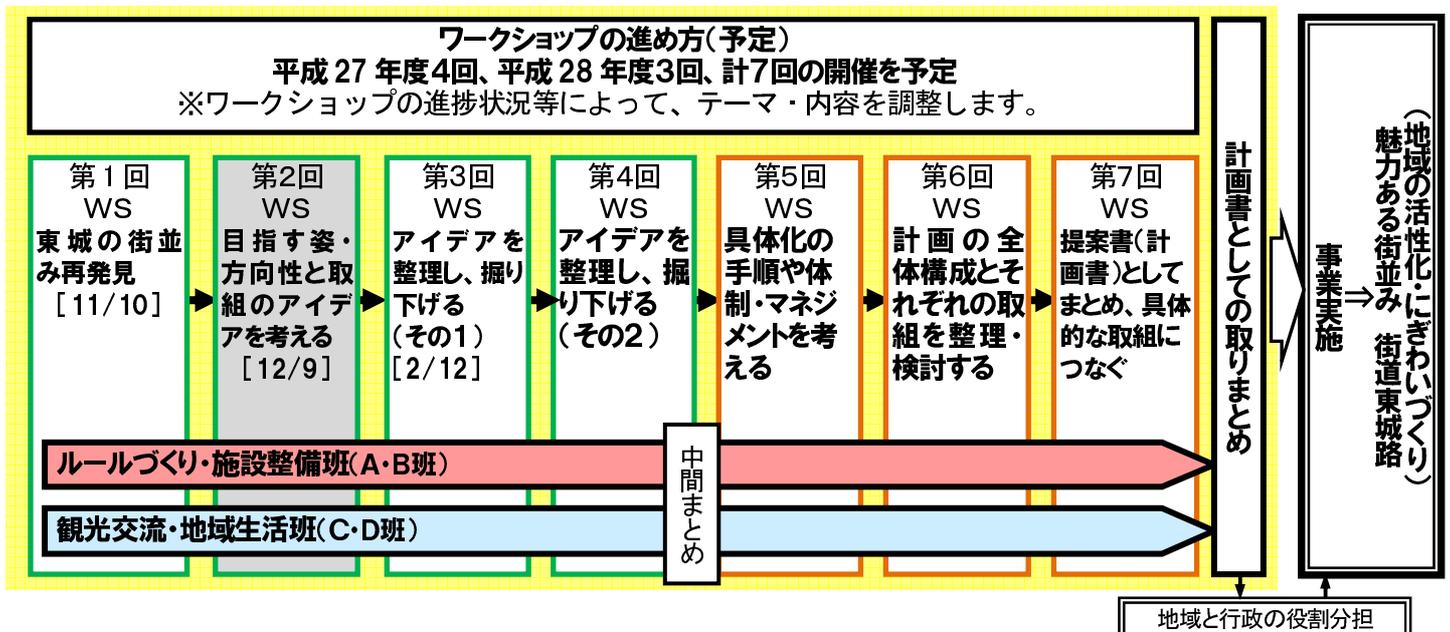
アドバイザーからのコメント

(福田由美子先生[広島工業大学教授])

- 東城は色々な時代のものが混在する面白さがあり、キーワードはそれらの共有化。色々な時代のものに色々な人、色々な世代が関わり共有していくことが大切だと感じました。
- 理屈が裏にあるプラタモリ的な面白さが指摘されています。かしまった歴史からの理屈ではなく、「実はここにはこんな商売があったからこうなっているんだ」とか、ささやかな日常生活の中に息づくもの・ことのつながりが「へえ〜」という感覚に結びつく。そういう一面も大事にして欲しいと思います。
- 古い記憶を持つ人が少なくなっているのを何とかしたいという点についても、アイデアが出てくると興味深くなってくると思います。
- 自分たちが住みやすいまちを考える場合は、住むという範囲を考えておいたほうが良いと思います。
- 「大切に思うこと」「好きになること」「愛着」というキーワードがあり、次世代の子ども達にも東城のまちを大事に思ってもらうことを軸に、アイデアが出ると良いと感じました。
- 人と話すことは楽しい。ワークショップにとどまらず、日常的に継続して案が深められることを期待します。

(松田智仁先生[広島大学教授])

- 「住むまち」なのか「招くまち」なのか、どちらを重要とするのかを決めないと、議論は難しい面があります。
- 物語を創ろうという話があり、創って言い続ければ、それが真実になるという面白い話もありました。
- タイムゾーンとして、区域毎に明治、大正、昭和などそこにある町家や洋館といった資源を生かす方法があると思います。
- 「舟での川下り」や、「看板への書き込み」、「人に優しい」などのキーワードもありました。直ちにできそうもないと思われることも含めて、次回以降も深めてもらえると良いと思います。
- 出席された皆様だけでなく、ご家族や周りの人などがまちや建物、公共施設などにどういう意見を持っているのか聞いていただき、次回その意見を出していただけるともっと話が厚くなります。
- 人を説得するときに例え話をすることがあります。街並みを華道に例えると、器が道路、葉が建物や看板、華が人だと思っています。器は地味に、葉は形がしっかりとっていて、花はあでやかであると美しく、山や川は背景としてあります。これらがどうあるべきかを時間軸を考えながら議論していただけると良いと思いました。



問い合わせ・連絡先

〒727-8501 庄原市中本町一丁目10番1号
 庄原市 都市整備課 担当：福田
 電話：(0824) 73-1173 FAX：(0824) 73-1147
 E-mail：toshi-shigaichi@city.shobara.lg.jp

～街並みづくりやまちづくりに関わるご意見なども、お寄せください～